入選　（高学年の部）

「やめろよ」

愛知県　蒲郡市立西浦小学校　六年
小笠原（おがさわら）　新（しん）

「新、さんぽ行くよぉー。」「うん。」

いつもとちがう元気なふり、お母さんとぼくは、西浦のていぼうの先まで歩いて、海をながめた。お母さんが、後ろからぎゅーとだきしめた。「やめろよ。もう6年生なんだからはずかしいだろぅー。」ぼくが言って、お母さんを見たら、目から涙がポロポロ。「どうしただぁー？」ぼくが言うとお母さんは、「幸せだねー。」と言う。「幸せなら泣くなよぉー。」「そうだね。」こんな会話になった。

ぼくは、4人兄弟の4男。お兄ちゃんたちも大きくなって、みんなそれぞれに旅立っていく。（さみしいのかなぁー？）みんなが、成長する分、がんばってきたお母さんはさみしい気持ちになる。「おれが、おるやん。」「兄ちゃんたちが出て行ったら、遊びに行けばいいし。結婚して、2人ずつ子供できたら、8人だよ。さみしい言ってるばあいじゃないよ。」お母さんが笑った。「ぼくたち、金もちになったら母さん遊んでくらせるよ。」ぼくが言うと。「あっはは」お母さんのいつもの笑顔がでた。

お母さんは、そうさいセンターで働いている。死に近い仕事をしているので、いろんな人の死、家族の悲しみをうけると、自分の事のように思ってなげいて、反対に元気にふるまう。今を感謝する。「元気で毎日いてくれればいい。お母さんよりながいきしてね、それが、親孝行だからね。」（ぼくも毎日笑顔で楽しくなんでもがんばる）あたりまえの事で幸せなんだと学ぶ。「新、かたづけなさい。」「新、何やっとるのー。」いつものお母さん。元気に心から笑ってるお母さんだ。だんだんと「うるさいーわかっとる。」思ってしまうけど（本当はありがとうと思っている）

お母さんの笑顔と元気がないとはじまらない家族みんなが、かんしゃしてます。

いつもありがとう

毎日のせんたく物の4つの山も、毎日いっしょうの米の量も、毎週10本以上の牛乳の量もたくさん困らせる悩みの量も全然へらないけど、お父さんお母さんのおかげで、大きく成長しています。4人うんでくれたから、かならず、4倍以上の幸せがまってるからね。

「おれが、おるから。」

「おれらが、おるから。」

今のまま、笑っていてください。